

# 秋逍遙

(昭和四十五年寮歌)

熊野芳明君 作歌

吉田守男君 作曲

## 未明

秋に秋添う時雨月  
曙星瞬く恋々と

されど近づく蕭晨に

幽愁はつのるせつなくも  
落涙しばし悄然と

## 払曉

蕭晨は来にけり石狩野  
野菊に滴る血の雫  
木の葉さやぎぬ涼風に  
野を流離えば深き哀愁  
情けの露を探求むなり

## 昼

遙かに煙る大平原  
蕭然秋の小糠雨

原生林の錦も色寂し

黒俊馬の長嘶に沈思破れ  
秋の情趣を知る二十

## 落葉

時雨もやみてあかねさす  
赤紫雲の黄昏に  
夕陽返し珠玉の如  
蜻蛉が翅翎に我が久懷  
真情の友へと託すかな

## 初更

釣瓶落しの秋の日の  
紫紺の闇に淡く浮く

利鎌の秋月はあな悲し

きらめく長庚にただ涙  
己が運命か斯くあるが

## 深更

夢幻か人の世は  
秋の百子夜に我悄然  
地平の彼方へ冴星空を  
過りて落つる流れ星  
ただただ涙は何故か